



ステップスギャラリーオーナーの吉岡まさみはこれまで何度か他の場所で「Art Cocktail」と題したアートフェスティバルを行っているが、ステップスギャラリーでは初である。開廊から5年、満を持しての開催であろう。

今回総勢42名のアーティストが参加し、各自15×15cmの作品を2、3点、合計110点の出品であった。参加アーティストはステップスで個展を行う/グループ展に参加した者だけではなく、初参加のアーティストもいた。

吉岡をよく知るアーティストは、「Art Cocktail」の解釈に長けている。未発表、10年前、新作でも自己のスタイルを逸脱する作品と、ここでしか見られないことを前提にする。無論、従来のスタイルでも問題は発生しない。

絵画、彫刻、工芸、写真と、家庭で手軽に管理できる分野の作品が並ぶ。絵画といっても日本画、油彩、イラスト、その他と多岐に亘る。これだけ多様な発想が今日に発生していることを知ることが出来るのも楽しみの一つだ。

展示方法が、最大限に工夫されている。110点であっても、42人展を見ているように、的確なグループ分けが為されていて、尚且つ、個々の作品の特性が引き出されている。それは恐らく吉岡の直観が形成した業である。

壁面を飾る作品群は目の高さに心地よく、天井から吊り下げられたり、床に直接置かれたり、立体が壁面から飛び出しているように展示されたりと、様々な工夫が凝らしてある。この工夫によって、多すぎると感じない。

私は現代美術とはちっぽけな人間の存在と同様だと感じている。東京都現代美術館の壁面を突き抜ける巨大作品も現代を表すのに不可欠であるが、小さな作品ほど人間に近い。この展示は、人間を具に見ている気がする。

様々なカクテルが用意されているように思えるが、カクテルとは様々な素材を合わせて完成することを考慮に入れると、展覧会自体が1杯のカクテルに見える。唯の小品展ではない理由は、ここに隠されているのではないだろうか。

